

平成27年度塩竈市水道事業報告書

1 概況

(1) 総括事項

イ. 給水状況

本年度の年間総配水量は、大倉ダム水系の 6,467,141 m³及び仙南・仙塩広域水道用水供給事業からの受水量 1,061,642 m³の合計 7,528,783 m³ (20,570 m³/日) で、前年度 7,468,858 m³ (20,463 m³/日) に比較して 59,925 m³ (107 m³/日) 0.8%増加しました。また、一日最大配水量は 23,695 m³ (8月6日) で、前年度 23,012 m³に比較して 683 m³ (2.97%) 増加しました。

年間有収水量は、6,470,750 m³ (17,680 m³/日) で、前年度 6,501,900 m³ (17,813 m³/日) に比較して 31,150 m³ (133 m³/日) 0.48%減少しました。これは、口径 20m/m、75m/m、船舶用、生産用水で 59,658 m³増加したものの、それ以外の口径及び臨時用等で 90,808 m³減少したことによるものです。

有収率は、85.95%で、前年度 87.05%に比較して 1.10 ポイントの減となりました。これは、災害復旧工事施工後、管路内の不純物等の除去や水質確認のために使用する洗管水量の増加等によるものです。

年度末における使用栓数は、新築住宅等の給水栓の増加などにより、前年度と比較して 100 栓増加し、26,128 栓となりました。

ロ. 建設改良の状況

○ 改良事業

主な改良工事として、梅の宮浄水場のろ過池更生工事及び災害用給水資材保管倉庫設置工事等を実施しました。

また、東日本大震災の応急給水活動の経験を踏まえ、給水を可能とする応急給水タンクを応急給水ポイント 12 か所に整備しました。

○ 第6次配水管整備事業

本事業は、平成20年度から30年度の11か年計画で、水道水のより一層の安定供給を図るとともに、送配水管の耐震性の向上、長寿命管の採用によるライフサイクルコスト軽減を目的に実施している事業です。本年度は、昨年度に引き続き、泉沢町、栄町地区で口径 400m/m、延長 155.8mの配水管布設工事を行いました。

○ 老朽管更新事業

本事業は、国の生活基盤施設耐震化等交付金(水道管路耐震化推進事業)を活用し、地震による断水被害及び平常時の漏水事故の減少を図るため、耐震構造を有する長寿命管に更新整備する事業です。本年度は、本町、笠神、新富町、白萩町・桜ヶ丘地区の4路線で、口径 50m/m～250m/m、延長 1,084.2mの配水管布設替工事を行いました。

○ 災害復旧事業

本事業は、東日本大震災に係る水道施設等の災害復旧費(上水道施設)補助金の交付決定に基づき実施する事業です。本年度は、平成26年度繰越分として、寒風沢、港町、藤倉地区3路線、口径 50～200m/m、延長 3,385.2m、平成27年度事業として、港町、海岸通地区2路線、口径 50～150m/m、延長 388.6mの配水管布設替工事を行いました。また、寒風沢、

桂島地区2路線、口径75～100m/m、延長340.3mについては、翌年度へ繰越工事になりました。

○ 排水処理施設改良事業

本事業は、昭和52年より稼働している梅の宮浄水場排水処理施設の機械設備が老朽化したため、更新を行う事業です。本年度は、機械設備設置工事等の設計業務委託を行いました。

ハ. 財政状況 * () 内は税込決算数値

本年度の収益的収入は、1,648,080,210円(1,774,171,053円)で、前年度の、1,621,092,360円(1,737,976,909円)に比較して26,987,850円(1.66%)増収となりました。これは、大口需要者の水道料金の負担軽減の実施等により給水収益で47,320,397円減収となりましたが、水道加入金で11,090,000円、受託工事収益で67,072,089円増収したこと等によるものです。

収益的支出は1,399,832,526円(1,508,851,074円)で前年度1,321,360,133円(1,423,368,948円)に比較して、78,472,393円(5.94%)増加しました。これは、営業費用で1,905,952円、営業外費用の受託工事等で53,048,202円、特別損失で23,518,239円それぞれ増加している事によるものです。

これらの結果、本年度は248,247,684円の純利益を生じ、利益剰余金は1,584,690,852円となりました。

資本的収支は、総収入306,800,327円(うち仮受消費税280,480円)に対し、総支出807,573,156円(うち仮払消費税28,453,270円)となり、収入不足額500,772,829円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額28,172,790円、当年度分損益勘定留保資金334,365,600円及び減債積立金138,234,439円で補てんしました。

二. 大口需要者に対する水道料金の負担軽減状況

東日本大震災からの復興と地域産業の活性化を支援するため、大口需要者の水道料金の負担軽減を行いました。期間は平成27年4月検針5月徴収分から2か年間で、従量料金単価の内、第4段階51～100m³の単価255円を10円引下げ、同じく第5段階101m³以上の単価295円を50円引下げ、単価を統一して245円に改定しました。

本年度は、平成27年4月検針5月徴収分から平成28年2月検針3月徴収分までで、のべ6,463件、37,334,870円の軽減を行いました。

段階別	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
	0～10m ³	11～20m ³	21～50m ³	51～100m ³	101m ³ ～
単価(1m ³ につき)	83円	175円	235円	255円	295円
改定後	83円	175円	235円	245円	245円
差額				△10円	△50円

ホ. その他運営状況

梅の宮浄水場の運転管理、保守点検業務については、平成27年度から民間委託を導入し、安全・安心な水道水の安定的な供給確保と、施設の安定的で効率的な運営を図りました。